

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 ふるさと教育を… in Ena area

テーマ 郷土を大切に作る心を育む人材育成を目指したふるさと教育の研究

取組のポイント・成果

取組の内容とポイント I

➤ 地域の多種多様な大人の方々に学校に招いてつながりを構築し、郷土を意識した持続的なキャリア教育について考えていく。

① 7月25日(木) 参加者4名

※講師：曾我武史氏(付知のSO★GARDEN代表)、
曾我季代人氏(落合LABORATORY店主)、
曾我はづき氏

※高校生と地元の大人がどのように繋がっていくかについてアイデアを出し合いました。

② 7月30日(火) 参加者6名

※講師：大場健貴氏(株式会社エナジード)

※キャリア教育の具体的方法について、教員が生徒の立場になって実践してもらいました。



③ 8月2日(金) 参加者7名

※講師：近藤健次氏(教育研修課指導主事)

※現在の教育の問題点を知り、これからの教育について考えました。

④ 9月10日(火) 参加者6名

※講師：水野琢磨氏(協和ダンボール株式会社取締役)

磯村吉佑氏(東海神栄電子工業株式会社営業部係長)

可知拓朗氏(東海神栄電子工業株式会社品質保証部リーダー)

※企業活動により、どのように地域貢献を果たされているかを学びました。

⑤ 10月8日(火) 参加者7名

※講師：田口天士郎氏(三菱電機株式会社中津川製作所)

※商品開発の具体例を学ぶと共に、Uターンして働くことのメリットについて考えました。

取組のポイント・成果

取組の内容とポイントⅡ

- 日々取り組んでいることについての発表会を行うことで、身近に様々な活動をしている人を知り、今後の活動エネルギーへと昇華させていったり、その場で出会った人々同士の交流を通して新たなアイデアやエネルギーが生まれたりすることで、地域活性化に間接的に貢献する。

- 日時：1月4日（土）13:30～16:00 参加者 29名
@中津川市にぎわいプラザ6-1会議室
※発表のテーマ
 - ① 「3. 11の今」（大学3年生）
 - ② 「今、考えていること」（社会人）
 - ③ 「デンマーク風の生き方」（大学3年生）
 - ④ 「私の2019」（大学3年生）
 - ⑤ 「命の大切さ」（社会人）
 - ⑥ 「スポーツ心理学」（大学4年生）
 - ⑦ 「コーチング」（社会人）

- 感想より
 - ◇ 私は大学で日本文化を学んでいて、普段は専門的なことばかりを講演で聞いていたのですが、今回このような会に参加することにより、視野や知見などがとても広まりました。また同級生の活躍を見て感じる事ができ、私も人に伝えることができるような何かを頑張りたいと思いました。また来年もあつたらぜひ参加したいです！
 - ◇ 中津川市で生まれ育った若い方々が得られた知識や経験、そこから至った考えを聞けて、とても有意義でした。
 - ◇ 今日大学生の方々のプレゼンを聞いていると自然と今年はもっと動いて頑張ろうとか、たくさん挑戦しようなどエネルギーが出てきたように感じました。若い人からエネルギーをもらうことも素敵なことだなと思いました。ありがとうございます。

今後の課題

- ふるさと教育やキャリア教育の必要性について、我々教員は十分理解しているはずである。では、それを生徒に還元するとなった場合、本校では「恵那田舎塾」や「恵那ミライ図鑑」という形の活動があるが、どこまで教員が関わっていくことができるかが今後の課題である。
- 一方、運営側としては、「自ら学ぶ教職員応援事業」と「恵那田舎塾」の活動で、内容が重なる部分が多々あり、11回の実施（1月8日現在）を数えた「恵那田舎塾」に対して、「自ら学ぶ教職員応援事業」については尻すばみになった感は否めない。しかし、運営担当者としては、「恵那田舎塾」に教員が参加すること自体が、「自ら学ぶ」姿勢につながるとも考えており、働き方改革が叫ばれる時代に、この重複はもったいないと感じた。
- そこで、来年度以降も「ふるさと教育」を実践的に、生徒と共に学んでいく形での「恵那田舎塾」が実施できることを願う。そして、放課後の活動故に財源の確保が厳しい中で、学校外部の方々と積極的に教職員が関わっていくという意味で、「恵那田舎塾」の活動に「自ら学ぶ教職員応援事業」を活用することは可能かどうか、ご検討いただけると嬉しいです。